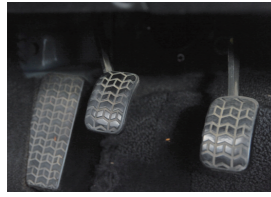


各種ペダルパッドの摩耗



ペダルを踏む際に滑りやすくなる!

ブレーキ、アクセル、クラッチ等のペダルパッドが摩耗すると、滑りやすくなります。

スパークプラグ(白金・イリジウム)の交換

点火不良によりエンジン不調、燃費悪化!

電極の消耗等により点火ミスが発生し、燃焼不良状態になります。

クラッチの作用

エンジン回転数だけ上がり、進まない!

クラッチディスクが摩耗するとクラッチが滑ることになります。すると、エンジン回転数だけが上がり、トランスミッションに十分に動力が伝わらなくなります。

ラジエータキャップの状態



オーバーヒート!

ラジエータキャップの機能により、通常冷却水の沸点は100℃超に保たれています。ラジエータキャップが損傷すると、沸点が下がり冷却水が沸騰し、あふれ出すことでオーバーヒートする可能性があります。

タイミングベルトの交換



エンジン停止・破損!

交換時期を超えて、ひび割れている状態で使用を続けると、ベルトが切れてエンジンが止まってしまう。最悪の場合、ピストンがバルブを突き上げて、エンジン内部が損傷する可能性があります。

エンジンマウントラバー及びブラケットの状態



エンジンルームからガタガタ音と振動が発生!

ゴム部品等の劣化により亀裂や損傷が発生しショックを吸収できず、異音や振動につながる恐れがあります。

ブレーキマスターシリンダのゴム部品(インナーキット)の交換



ブレーキの効きが悪くなる!

各種ゴム部品が劣化するとブレーキオイル漏れが発生し、油圧が低下することで制動力が低下し、停止するまでの距離が長くなる可能性があります。

ディスクキャリパー・ホイールシリンダのゴム部品(インナーキット)の交換



ブレーキホースの交換



長期使用車両の故障事例

[推奨点検項目を実施しよう!]

長期間使用したクルマは、ユーザーの皆様が気付かないうちに摩耗・劣化しており、このような状態で使用し続けると、突然重度の故障に陥り、多額の出費が必要になるだけでなく、交通事故に繋がる恐れがあります。これらを未然に予防し、マイカーを快適に使用するためには、法定定期点検だけでなく、年式・走行距離に見合った点検整備を実施しましょう!

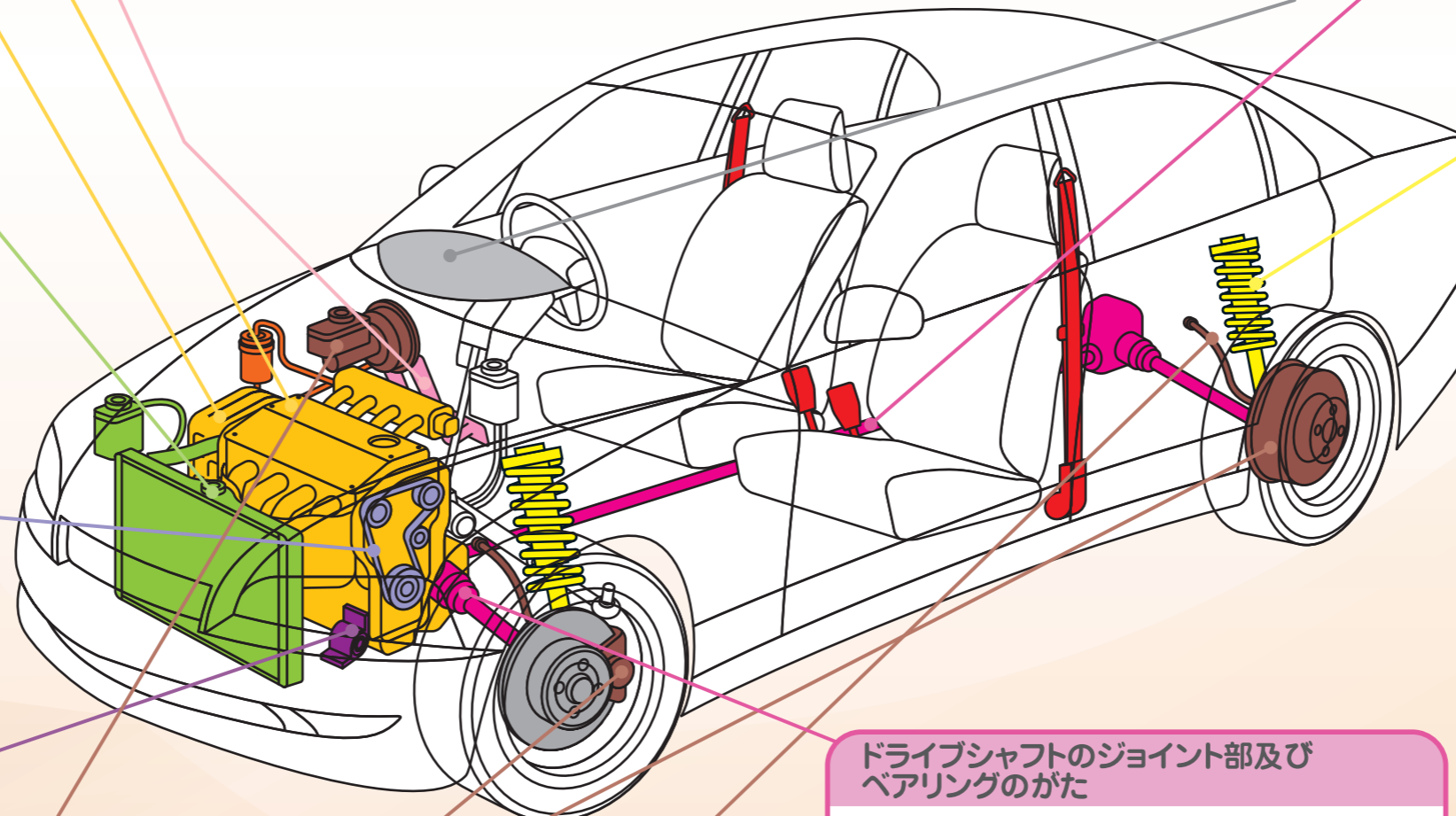


乗用車 編

長期使用車両の推奨点検とは?

長期使用による、摩耗や劣化が起きやすい箇所をピックアップし推奨点検項目としました。法定定期点検に加えて、長期使用車両に特化した推奨点検整備を実施して、安心・快適なカーライフを楽しみましょう!

○詳しくはスタッフまでお気軽にお尋ねください。



インジケータランプの点灯状態



車の不調に気付かずに重症に!

警告灯のランプが切れていると、車の不調やトラブルが起きた際にドライバーに情報が伝わらず、重度の故障に繋がる恐れがあります。

プロペラシャフトのジョイント部及びベアリングのがた



走行時にガタガタ音と振動が発生!

プロペラシャフトのベアリングやジョイント部分が摩耗することによりガタが発生し、走行中に異音や振動が発生します。

サスペンションの状態(機能の低下)



段差で車が跳ねる!

長期間の使用により、ショックアブソーバー及びスプリングがへたると、段差で車が跳ねやすくなったり、揺れが収まりにくくなり、乗り心地が悪くなります。

フューエルホースの交換(エンジンルーム)

燃料漏れによる臭い! 最悪、車両火災に!

ゴム素材のため、振動や伸縮の繰り返しやエンジンルーム内の熱気によりホースが劣化することで、燃料漏れが発生し、最悪、車両火災に至る可能性があります。

フューエルフィルタの交換

エンジン不調! エンジンが掛からない!

フューエルフィルタに異物がたまり、適正量の燃料を供給できなくなり、エンジン不調の原因になります。

クーラント(LLC、冷却水)の交換

ボンネットから煙が! オーバーヒート!

指定の交換時期を過ぎたまま使用し続けると、腐食防止性能が低下し、エンジン内やラジエータ内を腐食させ、錆などが冷却水の通路を詰まらせてオーバーヒートしたり、ラジエータに穴が開き、冷却水漏れを起こす可能性があります。

プラグコードの状態

エンジンの調子が悪い! 加速時にもたつく!

プラグコードの劣化により、点火ミスが発生し、点火不良状態になることで、エンジンの調子が悪くなります。

ドライブシャフトのジョイント部及びベアリングのがた



走行時にガタガタ音と振動が発生!

ドライブシャフトのベアリングやジョイント部分が摩耗することによりガタが発生し、走行中に異音や振動が発生します。

シートベルトの損傷、作用

衝突事故でシートベルトが効かず、大ケガ!

シートベルトがほつれていたり、切れていたりすると、事故等の際に本来の機能が働かず重大な怪我につながる可能性が高くなります。